

新年ご挨拶

情報サービス産業協会 会長 **横塚 裕志**



平成 28 年の年頭に当たり謹んでご挨拶を申し上げます。

さて、あらゆるモノがインターネットでつながる IoT (Internet of Things) 時代を迎えています。様々な現場の膨大なデバイスから大量のデータが収集・集約され解析され、新たなビジネスが次々と創り出されるデジタルビジネス革命の時代に入ってきています。

こうした中、IT を利用する民間企業や公共機関においては、IT への認識をコストから投資へ変える「攻めの IT 経営」の動き、IT ガバナンスやセキュリティ対策の観点からの内製化へのシフト、エンドユーザ部門における直接的な調達等 IT 投資や調達の在り方など、質的な面で大きな変化が生じてきています。

一方、我々情報サービス産業の側では、クラウドによるサービス化やデジタルマーケティングなど、地域や企業規模の如何にかかわらず専門性や強みを身に着けることで大きな飛躍が可能となるビジネス環境になってきました。

2020 年を挟むこの 10 年は、かつて経験したことのないダイナミックな変化が予想されます。その変化の主役は、ソフトウェアにほかなりません。経済社会のあらゆる営みがソフトウェアに大きく依存し、ソフトウェアによって形成される時代になるに違いありません。まさに我々情報サービス産業の前途に新たな活躍の時代の幕が切って落とされようとしています。

我々がこの新たな時代の担い手となるためには、従来型の受託開発からグローバルに通用する新しいビジネス創造へと事業領域を発展させていく必要があります。また、それを支えるエンジニアには、新しい技術や開発手法、さらにはビジネスプロセスを設計する超上流スキル等を習得し、それを武器にビジネスを創造し提案していくなど、変革の主役として先導することが期待されています。

そこで、昨年 10 月に当協会は、情報サービス産業そのものをより高いレベルに引き上げ、若者に情報サービス産業の魅力を伝えるため、“ソフトウェアで「!(革命)」を”と題する業界宣言「JISA Spirit」を発表しました。これは、当協会会員はもとより、情報サービス産業全体が「システム受託産業」から「価値創造産業」へ大きく生まれ変わることを宣言するものです。

我々は「JISA Spirit」において、自らの使命について四つの決意を示しました。すなわち、第一に、ソフトウェアはすべての産業の基盤 (Software Defined Everything) であり、すべての産業が世界で戦えるようにリードします。第二に、あらゆる産業がソフトウェアを駆使して、新たなイノベーションを起こしていくデジタルビジネス時代において、その先頭を走り、大きな革命を起こします。第三に、情報サービス産業の未来は大きく輝いており、これからの若者にふさわしい産業であり、情報サービス産業をより魅力ある産業に変革します。第四に、新しい技術が続々と現れ、進化する時代において、規模の大小や地域性にかかわらず、独創的なソフトウェアをいち早く創造することで、大きな価値を生み出し、飛躍します。

本年はこれらの使命を全うすべく取り組んでまいり所存ですので、当協会会員をはじめ関係各位のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。